

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度 総合	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①地域貢献活動に積極的に参加し、その活動を評価する生徒が80%以上である。	地域のニーズに応じた特色ある教育活動を実践するとともに、地域活性化に向けた交流活動を実践する。また、特色ある地域貢献活動等を積極的に情報発信することで、生徒の自己有用感の向上を図り、多くの生徒が主体的に活動に取り組むことができるよう働きかける。	A	B	B	生徒の「本校が好きだ」、保護者の「入学させて良かった」との回答は、ほぼ目標を達成している。しかし、地域貢献活動については、保護者・職員の高評価に対して、生徒の肯定的な回答は6割台であり、大きな格差がある。生徒のニーズや興味関心を把握し、満足度の高い、活動内容や手法の検討し、生徒が主体的に活動に取り組むための工夫が必要である。	・本校ならではの地域に密着した活動が評価されるが、生徒の積極的な参加に対する評価が低い。今後、生徒の興味関心の調査が必要である。 ・「本校が好きだ」「入学させて良かった」との高評価は素晴らしい。 ・最近、マスコミでドローンが医療や警備、調査、スマート農業、物流など様々な分野で社会活動に欠かせない重P5:P15要な役割を担い、次世代産業となっているため、ドローンを活用した特色ある取組の推進を期待する。
		②自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は85%以上である。	生徒一人ひとりの興味や実態、進路希望等に応じた学科選択でき、意欲的な専門学習につながるよう支援するとともに、専門高校としての教育活動を充実させた魅力ある学校づくりに取り組み、生徒の主体性を引き出すよう諸活動を工夫する。	A	B	B		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③「授業がわかりやすい」と、生徒の85%以上が答えている。	基礎的な知識や技術の習得に向け、生徒や学級の実態に応じたきめ細やかな指導や支援を実践する。また、職員間で生徒情報を共有し、個々の生徒が理解でき、主体的な学習活動となるよう授業改善に取り組む。	A	A	A	「授業や実習はわかりやすいか」という質問に対して、職員の94.7%がわかりやすい授業のための工夫や改善を実践していると回答しており、生徒の91.5%、保護者の94.7%は授業に対して肯定的な回答をしている。本校の実態として、基礎学力に課題がある生徒が多いため、学び直しと初期段階の授業をいかに次のステップにつなげるかが課題である。 資格取得指導に関しては、生徒は90.1%、保護者は90.1%、職員は97.3%が肯定的な評価である。今後の課題としては、基礎学力の向上とともに、社会で必要とされる知識と技術をどう身に付けさせるかが挙げられる。 意欲的な学習への取り組みについては、生徒87.5%、保護者78.3%が肯定的な評価であった。職員の自己評価も89.2%が肯定的な評価であったが、今後も教員が継続的に授業改善に取り組む、生徒の知識・技術を向上させていくための工夫が必要である。 確かな学力を身に付けたかどうかについては、生徒87%、保護者72.6%、職員75.7%が肯定的な評価であった。全体として目標は上回っているが、生徒の評価に対して保護者と職員の評価は低い。そのため、家庭学習の習慣化やICTの効果的な活用等に向けて、継続的な働きかけを進めていくことが課題である。	・教員が「わかりやすい授業」のために創意工夫し、生徒の多くが肯定的に評価していることは素晴らしい。授業での教員と生徒がディスカッションしやすい雰囲気であったのが印象的であった。資格取得指導も継続して欲しい。 ・生徒及び保護者の「わかりやすい授業である」という肯定的な意見が多いことは、評価できる。 ・専門学習として、スマート農業の担い手育成や地元特産品の開発や普及に取り組んで欲しい。
		④資格取得に向けた指導に、生徒の85%以上が満足している。	基礎学力向上のための資格取得指導を充実させるとともに、資格取得の有用性を理解できるように、家庭と連携したきめ細やかな指導に取り組む。また、ICTを活用した学習で「朝学習の時間」を充実させ、様々な資格や検定の合格率向上を目指す。	A	A	A		
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤意欲的に学習に取り組んでいると自己評価している生徒が80%以上である。	教材研究や自己研鑽を通して教材に対する理解を深め、生徒が興味や関心を高め、生徒が自ら考え、課題を解決することができるように指導と評価を工夫する。授業では、発表する機会を設け、課題解決能力とプレゼンテーション能力の向上を図ると同時に、学習成果を実感できるよう振り返りや自己評価を実践する。	C	B	B	教材研究や自己研鑽を通して教材に対する理解を深め、生徒が興味や関心を高め、生徒が自ら考え、課題を解決することができるように指導と評価を工夫する。授業では、発表する機会を設け、課題解決能力とプレゼンテーション能力の向上を図ると同時に、学習成果を実感できるよう振り返りや自己評価を実践する。	・教員が「わかりやすい授業」のために創意工夫し、生徒の多くが肯定的に評価していることは素晴らしい。授業での教員と生徒がディスカッションしやすい雰囲気であったのが印象的であった。資格取得指導も継続して欲しい。 ・生徒及び保護者の「わかりやすい授業である」という肯定的な意見が多いことは、評価できる。 ・専門学習として、スマート農業の担い手育成や地元特産品の開発や普及に取り組んで欲しい。
		⑥自己の目標に応じた学力を身に付けたいと自己評価している生徒が各学年70%以上である。	生徒自身が、学習に対する明確な目標を設定し、達成のための取り組みを考え、主体的な学習や振り返りを実践できるよう、LHRや授業において働きかけを行う。また、知識や技術が身に付いたと実感できるよう、課題や評価を工夫し、家庭学習の習慣化やICTの効果的な活用などを行う。	B	B	B		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦組織的な指導のため、生徒の情報交換を月に3回以上行っている。	問題行動やいじめの未然防止に向け、朝の校門指導や昼休みの巡回指導を継続して行い、生徒理解に努めるとともに、職員会議や学年会での定期的な情報交換を実践し、生徒の変化や相談事に迅速かつ組織的に対応する。	A	A	A	組織的な指導のための情報交換は、職員会議や学年会だけでなく、教科担当や部顧問等とも綿密に生徒の状況について情報共有し、担任・学年・生徒指導・管理職が連携した組織的な指導を実践することができた(毎朝SHRは担任・副担任・学年主任が協力して行い、気になることがあれば速やかに教頭・生徒指導主事等と情報を共有している)。月に3回以上の情報交換を次年度も継続し、問題行動やいじめの未然防止を実践していきたい。 相手を思いやって学校生活を送れている、主体的にいじめ防止活動の実践をしている生徒が95%以上の評価であった。生徒に関する些細な情報を生徒や教職員間などで早めに共有できたり、校内の短時間での研修や集会などで全校にいじめの定義を繰り返し伝達することで1人1人のアンテナを高くすることができた。しかし、知らずのうちに他者を傷つけてしまうような案件が増加している状況から、自己評価は78%程である。 昨年に引き続き、多様な悩みを抱える生徒に対して、迅速にスクールカウンセラーと協力して対処できた。しかし、生徒の悩みが解決するまではいかないケースもあったため、スクールカウンセラーだけではなく、関係機関等とも連携した対応に取り組む、生徒の心身の健康管理に努めていく必要がある。 健康的に生き生きとした生活を送れるよう、スマートフォンの利用や食事、睡眠などの重要性を理解させる授業や講演会等を実施してきたが、保護者の35%が適切でないと感じている。今後も県教委や関係機関からの資料を有効活用し、保護者と連携して根気強く生活習慣の改善と情報リテラシーの重要性を伝えていく。	・いじめや心身の状況、家庭環境等の悩みを抱える生徒に対し、問題を解決するためには、非常に繊細で根気と時間を要する。親の意見として、学校だけで解決することは困難であり、関連機関との連携が必要である。保護者としては、諦めずに見放さないで向き合って指導されることを望む。 ・主体的にいじめ防止活動を実践している生徒が95%以上であることは、評価できる。 ・地元の奨学金等を積極的に活用して欲しい。また、富岡製糸場や宮崎公園での花壇植栽は市民に大変喜ばれているため、継続して欲しい。
		⑧いじめをしない許さない態度を身に付け、いじめ防止活動に主体的に取り組む生徒が90%以上である。	学校行事や学年集会などを利用し、継続的にいじめの定義や重大性などを生徒や保護者に周知し、いじめ防止の意識を高める。また、いじめ防止標語づくりや生徒目標の立案などを通して、生徒一人ひとりが主体的にいじめ防止活動に参画していると実感できる取組や生徒及び保護者が相談や報告がしやすい環境となるよう指導や支援を工夫する。	B	A	B		
		⑨心身に悩みや不安を抱えている生徒が、スクールカウンセラーの利用により悩みや不安が改善された、軽減されたと評価する生徒が80%以上である。	生徒観察と積極的な情報共有を通して、個別的な支援が必要な生徒や保護者に対して速やかにスクールカウンセラーの利用を働きかける。また、生徒及び保護者が安心安全な学校生活を送ることができるよう、教職員、家庭、関係機関が連携した雰囲気づくりや原因究明に努めるとともに、きめ細やかな指導や支援を実践する。	A	B	A		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩毎日朝食を摂ることや睡眠時間の確保など、健康に留意した生活を送るよう意識している生徒が80%以上である。	「ごころの天気」や「生活アンケート」、面談を通して、生徒の心身の健康状態の実態把握を行うとともに、授業や講演会などで健康について意識を高める。また、規則正しい生活習慣の確保や適切なスマートフォン等の利活用が身に付けられるよう警察や関係機関などと連携した指導を実践する。	B	B	B	・進路に関して非常に丁寧な指導と相談に乗っているため、生徒及び保護者の肯定的な意見は納得できる。今後も生徒一人一人の希望を実現できる指導を願う。 ・生徒が主体的な進路選択をしていると感じる。 ・インターンシップを効果的に実施して欲しい。	
		⑪進路に関する行事が進路選択に役立っていると評価する生徒が85%以上である。	進路実現に向けた生徒及び保護者のニーズを把握するとともに、進路ガイダンス、進路講演会、企業見学、インターンシップなどを通して、生徒及び保護者が求める情報や体験の場を提供し、希望する進路実現できるよう指導を充実させる。	A	A	A		
		⑫自己の適性を理解し将来の職業との関連について考えている生徒が80%以上である。	適性検査や基礎力診断テストなどの検査結果や評価を的確にフィードバックすることにより、生徒が自己理解し、自己の適応に応じた進路選択ができるための指導を実践する。	C	B	B		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑬挨拶やコミュニケーション等を進んで行い、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が85%以上である。	富岡市や関係機関と連携したキャリア教育の実践や進路対策講座などを積極的に活用し、挨拶やコミュニケーション能力を身に付け、地域から信頼される人材の育成に取り組む。また、生徒の主体的な進路選択、進路実現に向けた学習を実践できるよう情報や教材を提供する。	A	A	A	PTA活動や学校行事に多くの保護者が来校し、関心の高さが伺える。しかし、連絡メールの有効活用やわかりやすいホームページの改善等の要望があるため、引き続き工夫と改善を行い、家庭と地域に信頼される学校づくりを推進する。 保護者が、学校や生徒の活動に関心を高め、より理解しやすくなるようホームページの改善、TOPICSやお知らせの速やかな掲載を行う。また、連絡メールを有効に活用し、適切に情報提供できるように工夫する。 効果的なICTの利活用により、生徒が知識や技術の習得が実感できるよう指導と評価を充実させるとともに、最新のソフトウェアや機能に対応して、より効果的な授業展開ができるよう職員研修や授業改善し、アンケートの実施により、実態を把握する。 新規の連絡メールを活用した保護者通知や出欠連絡、アンケート調査等で保護者及び教職員が効率的となるよう改善を継続するとともに、より効果的なICTの利活用に向けて教職員間で情報を共有する。	・保護者が来校して生徒の様子を参観できる機会を設けており、評価できる。 ・学習成果発表会での成果内容等は、地域にも発信して広めて欲しい。 ・農産物の販売を通して、地域住民との交流を充実させて欲しい。
		⑭PTA活動や学校行事等に1回以上参加している保護者が80%以上である。	保護者に対して、本校の特色ある教育活動を情報発信するとともに、地域での販売会や各種交流行事の充実と参加者の増加に向けて企画する。	A	B	B		
VII 教育デジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑮ICTを活用した授業に、生徒の80%以上が満足している。	保護者に対して、本校の特色ある教育活動を情報発信するとともに、地域での販売会や各種交流行事の充実と参加者の増加に向けて企画する。	A	B	B	ICT機器の活用した授業により、生徒の多くは知識や技術が身に付いたと実感している。更に、効果的なICT機器の活用により、学習習慣の確立や基礎学力の向上を図りたい。また、保護者の学校評価アンケート回答率が78%であるため、連絡メールや通知を改善し、情報提供及び情報収集の充実にも努めていきたい。	・ICT機器の利用スキルは、社会での即戦力となり必要不可欠であるが、機器がないと考えたり、調べたりできないのではと危惧する。機器を活用しながら、自分で思考し活字の楽しさを学べるとよい。 ・新しい取組が進んでいることがわかった。 ・DXやICT等を活用する教育活動を通して、最新技術の習得に期待する。
		⑯ICTを活用した通知やアンケート調査に、保護者の80%以上が満足している。	保護者が、学校や生徒の活動に関心を高め、より理解しやすくなるようホームページの改善、TOPICSやお知らせの速やかな掲載を行う。また、連絡メールを有効に活用し、適切に情報提供できるように工夫する。	A	A	A		